

みなさんこんにちは、いつも白衣の恵子先生です。皆さんのお家にある辞書はどのくらいの大きさですか？先生は小学校に入学するときに漢字の成り立ち辞典を買ってもらいました。山や川や魚といった漢字が目で見える形そのものからできていることが面白くて、折を見ては開いていました。辞典なので、どこから読んでもいいのが先生の性格に合っていたのかもしれませんが。今でも鮮明に覚えているのは『東』という漢字は木の枝の間から太陽の光が差し込んでくる風景を形にして『木』と『日』を重ねて『東』と書くようになったというエピソードです。単純に面白い！と思いながら読んでいました。中学生になると英語の辞書、高校生になると漬物石かな？と思うような厚さ 10 cmもある国語辞典も買ってもらいました。この頃になると日本語の学ぶことの広さに唖然とするのと相反して、気付くと数字の世界に魅了されていました。辞書から離れて数十年・・・

2012 年の本屋大賞だった『舟を編む』という物語がドラマ化されたものに最近出会いました。辞書を作り上げるまでのストーリーをそれぞれの人間模様とともに描いたもので、言葉の魅力や辞書作りへの情熱を感じられる作品です。その中で、主人公の女性が失敗から学び、こんなことを言います。「先輩から教わったんですけど、辞書は『入り口』。知識とか興味の『入り口』。用がなくても開きたい辞書が作れたら誰かが『入り口』と出会うチャンスを増やせるということです。」それを聴いた紙の営業マンは「たいていの人はそうだと思うんですけど、辞書をひくことはゴールだと思っている。その言葉の意味を知りたくて、ひいて分かってゴールみたいな。…それが（逆で）始まるんですね。」「そうです。『入り口』を増やせちゃうんです。」「そんな辞書を作りましょう。」と 2 人で熱く語るシーンにハッとさせられました。先生も辞書をひくときはゴールになっていたからです。知識や興味の『入り口』。みなさんは、これからどれだけの『入り口』に出会うことができるでしょうか？楽しみですね。

辞書だけでなく、『入り口』は様々なところにあります。先日の万博オンラインをきっかけに「かんぴょう」について調べていた 3 年生が「かんぴょう音頭を踊りたい！」「私少し知ってます！」「踊れるようになってお家の人に見てほしい」との声が上がりました。この壬生町のふるさと祭り代々受け継がれている盆踊りである「かんぴょう音頭」を只今絶賛練習中ですね。そして「先生、踊れるようになりました。見てください。」とお誘いされるほどになりました。3 年生の意欲の高さと挑戦する姿勢に胸が熱くなりましたよ。この壬生町を大切に思い、盛り上げることができる大人に成長してくれることを期待していますよ。

さあ、残すところあと 1 週間で夏休みです。夏休みと言えば・・・「自由研究」。せっかくですので、〇〇先生に自由研究をするときのコツを教えてくださいましょう！！

はい、みなさんこんにちは。〇〇博士ですよ～。せっかくの夏休みですから理科学研究に取り組んでほしいなと思います。まずはテーマを決めることですね。生活の中で不思議だな？なぜだろう？と思ったことを調べてみるといいですね。次に、図鑑や教科書・ネットなどから資料を集めましょう。その上で研究方法・計画を立てましょう。そして、実験・観察・調査するわけですが、自分で道具を作ってみよう！なにが使えるのかな？どんなことを工夫したらいいかな？工作してみたりするのもいいですね。準備ができたらいよいよ実験ですね。データやいろいろな変化は写真や動画にとっておくといいですよ。表やグラフや図にしてみると変化が分かりやすいですね。最後に考察が一番大事！何が予想とちがったかな？同じだったかな？自分の言葉でまとめますよ。何か不思議なことを解き明かす！謎を解き明かす！ことにチャレンジしてみてくださいね。

〇〇博士、ありがとうございました。（拍手）謎を解き明かす！〇〇博士から素敵なアドバイスをいただけたので、みなさん夏休みの計画をしっかりと立てましょうね。

それでは、また来週 See you next week ! Take care of yourself ! Have a nice weekend !